

一般演題 4 O4-02

健康気圧装置（HCC）の使用実態調査

○針谷 聡

O2 ハリーテクノ株式会社

【はじめに】

健康志向の高まりとともに、家庭や事業所において健康気圧装置（Hyperbaric Chamber for Care：HCC）の導入が進んでいる。2024 年に三浦邦久らによって提唱された「安全な HCC 使用のためのガイドライン」では、装置の設計基準および運用管理体制についての明確な基準が示された。

本研究では、当社が過去に群馬県内へ納品した HCC について、ガイドラインに沿った運用がなされているかを調査し、使用実態と安全管理状況を検証した。

【方法】

対象は、2007 年～2024 年に当社が群馬県内に納品した HCC 46 台。

2025 年 1 月から 3 月にかけて、納品先のうち連絡可能な 32 施設に対し、電話または訪問にて使用状況に関する聞き取り調査を行った。

調査項目は、(1) 使用の有無、(2) 安全管理（火気対策・消火設備）、(3) 使用記録の有無、(4) 異常時対応マニュアルの整備状況、(5) 使用頻度と管理者属性、などである。

【結果】

連絡が取れた 32 台のうち、30 台は現在も稼働中であり、2 台は使用中止（理由：家族の体調改善、設置環境の都合）であった。設計面では、全装置がガイドラインに定められた 1.3～1.5 気圧範囲に対応し、視認窓や単室構造など構造要件も適合していた。

安全管理体制においては、「火気厳禁」の認識は 23 台で確認された一方、消火器や水バケツの設置は 10 台にとどまった。使用記録を行っていたのは 6 台であり、いずれも国家資格保持者が管理する施術所であった。異常時対応マニュアルが明文化されていたのは 2 施設であった。

【考察】

事業所での使用は安全意識が高く、点検や記録管理の体制も比較的整っていた。一方、個人利用では取扱説明書未読やマニュアル未整備のケースも多く、安全性確保における運用者の理解と習慣化が課題であると考えられた。安全装置としての構造的信頼性は担保されていたが、実使用現場におけるリスクマネジメント体制の格差が明らかとなった。

【今後の展望】

当社では今後、年 1 回の定期点検を通じたガイドラインに基づく再教育、使用記録テンプレートの提供（紙・

PDF・デジタル配信）、火災防止マニュアルの配布および動画化、代理店・メンテナンススタッフへの再研修などを通じ、HCC のより安全な普及と運用支援を継続していく。

参考文献

- 1) 三浦邦久. 健康気圧装置の安全使用に関する提言. 日臨高気圧潜医学会誌. 2024；19：20-23.